



学校だより

学校の教育目標 「じりつする子供の育成」



学校の様子をご覧ください。

<http://www.nyuzen-e.tym.ed.jp/>

「あっ」

校長 斉藤 康

「俺と野球する先生、いないか？」大休憩終了直前に職員室にやってきた1年生がいました。すぐそばに私がいたので「いいよ。やろう」と言うと休憩終了のチャイムが鳴りました。仕方なく「じゃあ今日は金曜日で懇談会があるから、月曜日の大休憩にしようか」と言うと「約束守ってよお」と言って彼は教室に向かいました。土日を挟んで月曜日の大休憩、職員室とグラウンドをつなぐ出入口で待っていましたが、彼は来ません。給食の時間に彼のところに行って「大休憩に待っていたけれど、君が来なくてさみしかったよ」と伝えると「あっ」とつぶやいてから「明日の大休憩にしよう」と言ってきました。彼の表情から「忘れていたのだろうなあ」と察してしまいました。そして「あっ」とつぶやいた瞬間の彼の表情から「しまった〜」という彼の思いが見えました。「約束が守れなかったこと」なのか「さみしい思いをさせたこと」なのかは分かりませんが、「しまった〜」と思えたことは彼にとっての学習だと思っています。失敗することやうまくいかないことは、山のようにあります。（自分がそうです）しかし、そこからの学びが大切なのではないかと思います。「しまった〜」をしっかり受け止めて次に生かす。そうしながら成長していくものなのだと思います。少しずつでよいと思います。自分の行いを振り返る場や時間をとったり、子供の様子を見ながら声をかけたりして心の成長を促していこうと考えています。ちなみに翌日は雨。その次の日ようやく彼と野球ができました。私の上げるトスしたボールをネットに向かって気持ちよさそうに彼は打っていました。

6/11（木）入小タイム本格始動

大休憩に異学年によるグループで様々なゲーム等を週に一度行います。（本校ではこれを入小タイムと言っています）6年生を中心に各グループで「フルーツバスケット」や「8の字跳び」、「ジェスチャーゲーム」、「私は誰でしょうゲーム」等々を行います。最初はどうすればよいのか戸惑っていた子供たちも活動が進むにつれて楽しそうな表情が多くみられています。この活動の大きなねらいは「社会性を育む」です。人との関わり方を学ぶ場の1つにしたいと思っています。



AIドリル（タブドリLive!）を活用した学び

本校では、子供たちの主体的な学びを支えるため、AIドリル「タブドリLive!」を導入しています。授業では単元の予習・復習、漢字や計算の習熟に活用しています。また、休み時間には友達と教え合ったり、自分でじっくり考えたりと、進んで取り組む姿が見られます。このドリルの良さは、一人一人の進度や習得状況に合わせて学習できる点です。自主学习として得意な教科や自分の課題に合わせた問題を自ら選んで進めたり、先生からの課題を、自分の生活リズムに合わせて家庭で計画的に進めたりする子供もいます。一方で、自分で進めることが難しい児童へは、個別の働きかけや声かけを行い、誰もが自分のペースで学べるようにしています。今後も、手書きによる書くことの良さを大切にしながら、デジタルならではの個別最適な学びをバランスよく組み合わせ、子供一人一人の確かな学力向上に向けて支援していきます。



頑張る委員会活動

今年度の5、6年生が行う委員会活動は「企画委員会」、「集会委員会」、「環境ボランティア委員会」、「図書委員会」、「放送委員会」、「体育委員会」、「保健委員会」、「給食委員会」の8つの委員会で活動しています。学級や学年のことだけでなく、入善小学校での学校生活をより充実させたり向上させたりするために各委員会で話し合い、行動しています。決して目立つ活動ではないことが多いのですが、なくてはならない存在になっています。そういう下支えしてくれている子供たち【自分の当番である朝の放送をする放送委員】ちは「本当に立派だなあ」と私は感じています。



第59回交通安全こども自転車富山県大会 ～やってみないと分からない

第59回交通安全こども自転車富山県大会に入善小学校の5、6年生のチームが参加します。チームは放課後に黒東交通安全協会の方の指導の下練習に励んでいます。縄梯子の上を自転車で通過したり、ボーリングのピンを避けながら運転したりしています。簡単そうでしたので、私もやってみました。しかし、まっすぐに縄梯子の上を進めませんでしたし、ボーリングのピンはバタバタ倒してしまいました。見ているだけとやってみるとでは大違いでした。子供たちも苦戦していましたが、やはり練習が大事なのですね。とても上手になっています。7月5日（日）にある富山県大会での活躍を期待しています。

